

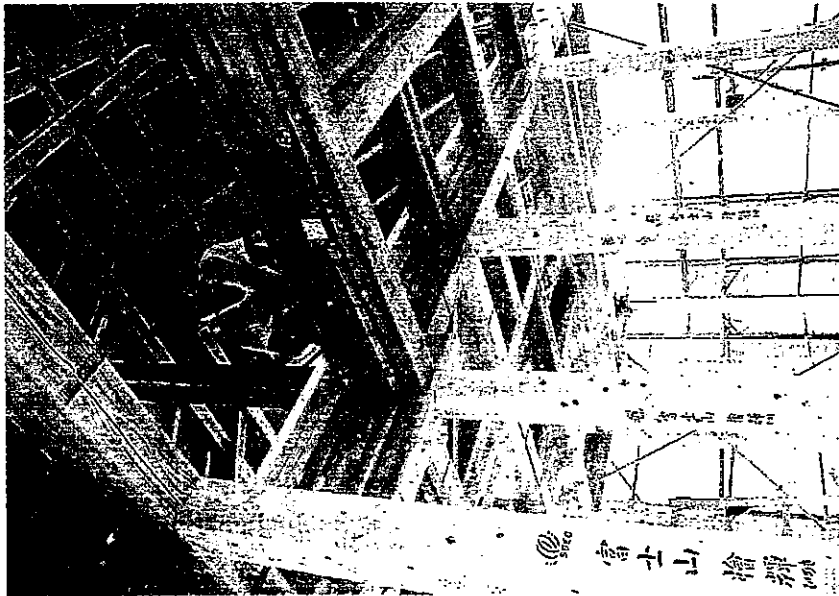
国、県、業界が"お墨付き"

県内産木材使用 優良住宅建設中

国の「200年住宅」(長期優良住宅)、県の「しずおか優良木材の家」、県中東部の工務店などが組織する富士山木造住宅協会の「森林認証システムの家」。この三つの制度の認証を受けた注文木造住宅が、静岡清水区有東坂で建設されている。同協会の事務局(富士市、住居資材販売マルタ)によると、「トリプル認証」の住宅は県内で初めて。

清水区 静岡

「気候に合し長持ち」



国、県、業界団体からそれぞれ「優良」の「お墨付き」を得た木造住宅の建築現場 静岡清水区

品質や耐久性が高く数世代にわたって住むことができる「200年住宅」は、今年6月に施行された長期優良住宅普及促進法に基づく住宅。一般住宅よりもやや割高になる建築費の負担を軽減するため、固定資産税などが税制上の優遇措置が受けられる。

「しずおか優良木材の家」は、県内の林業や木材産業の振興を目的に県が05年度に始めた制度。県内の木造住宅で、「しずおか優良木材認証製品」を45%以上使用するなどの条件を満た

せば、1棟30万円の助成金を出している。

富士山木造住宅協会が認証する「森林認証システムの家」は、林業団体や環境NGOなどが組織する「緑の循環認証会議」が環境保全と木材生産を両立させる持続可能な森林管理として認められた富士宮市内の日本製紙社有林のヒノキを富士ひのき加工協同組合が製材したブランド品「富士山檜(ひのき)」を使用している。

建築を手掛けているのは大功建設(清水区)。柱に使う富士山檜をはじめ、杉や広松も県内産が中心。

大功社長は「地元の木材で作った家は気候風土に合っており、長持ちする。住んでいる人の体にも優しい」と説明し、「いい木材を使う家は作る側もやりがいを感ずる」と話す。

11月中には完成の予定で、9月12、13日に懇学会を開く。両日とも午前10時から午後5時まで。問い合わせは大功建設(電話0120)353175)へ。